

吉野杉ギターが古都を奏でる

齋藤優貴 & チェ・ギターラ ギターコンサート

今世界で注目のギタリストたちの演奏を ソロとトリオで

5月16日(土)

開場13時 / 開演14時

奈良市西部会館市民ホール
(学園前ホール)

奈良市学園南3丁目1-5
西部会館3F
近鉄学園前駅・南口出てすぐ

全自由席

前売り：3,500円・小中高 2,000円
当日：4,000円・小中高 2,500円

発売日：3月6日

プログラム

ソロ (齋藤優貴)

タレガ：アルハンブラの思い出

トゥリーナ：セビリア風幻想曲

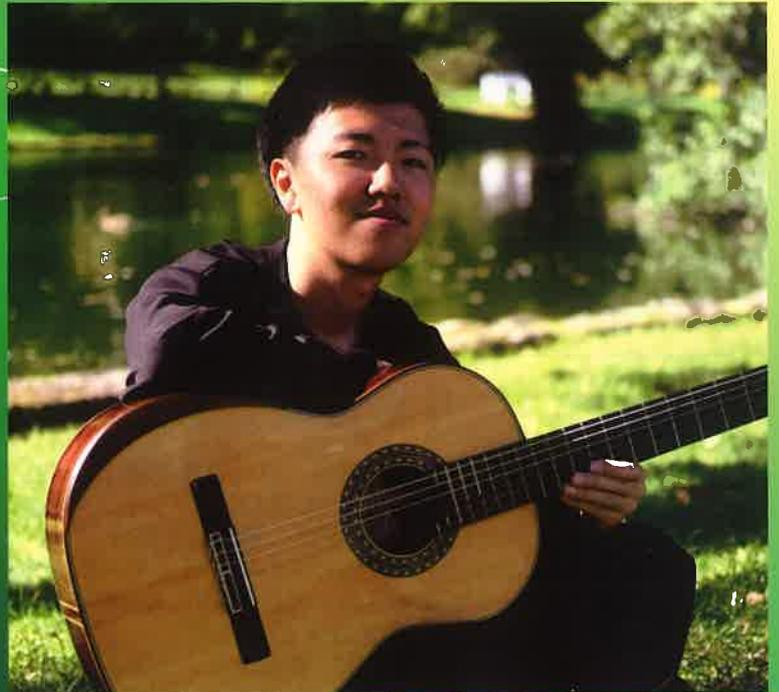
コスト：劇的幻想曲「旅立ち」

武満徹：ギターのための12の歌より
ほか

トリオ (チェ・ギターラ)

佐藤弘和：鳥の詩

富山詩曜：アメージンググレイス変奏曲
ほか



問い合わせ

奈良友の会 Tel・Fax 0742-43-7787

TEL受付：祝日除く 火・金 10時～15時

e-mail：naratomo@office.eonet.ne.jp

奈良市五条1丁目18-12

主催：奈良友の会



やむを得ない理由により 変更になる場合があります

Nfc Nara for Culture
ムジークフェストなら 2026

齋藤優貴 Yuki Saito

ギターの三大コンクールのひとつとされるミケーレ・ピッタルーガ国際ギターコンクール(イタリア)で最高位を受賞。世界各地の国際コンクールでの受賞数は、日本人ギタリストとして最多の55にのぼる。これまでに、世界15ヶ国以上でコンサートやマスタークラス、コンクールの審査員などを務める。2024年、川崎市アゼリア輝賞を受賞。同年、MUZAジルベスターコンサート2024にて、故秋山和慶氏指揮、東京交響楽団との共演で好評を博す。テレビ朝日「題名のない音楽会」、フジテレビ「めざましテレビ」など、メディアにも多数出演。奈良市のレストラン「オーセンティックテーブル タバーン」にて、毎月ギターによるライブを開催。



藤元高輝 Koki Fujimoto

これまでに村治昇、新井伴典、荘村清志、江間常夫、アンスガー・クラウゼの各氏に師事。作曲を塩崎美幸、植田彰、伊左治直の各氏に師事。指揮を本多優之氏に師事。2008年 ヴァイカースハイム国際ギターフェスティバル(ドイツ)コンクール部門第1位。2011年 東京国際ギターコンクール第1位。2016年、武満徹没後20年を記念したCD「武満徹ギター作品集」を発表。2019年 ハインスベルク国際ギターコンクール(ドイツ)第1位。同年、19世紀のオリジナル楽器を使用したCD「フェルナンドソルギター作品集」を発表。2021年にはラヴェル「鏡」より道化師の朝の歌のギター独奏編曲をPrim Musikverlagより出版。趣味は囲碁。

井本響太 Kyota Imoto

パリ国立高等音楽院を審査員満場一致の首席で修了。J.S.バッハ国際ギターコンクール第1位、日本ギターコンクール第1位、アントニー国際ギターコンクール(仏)第1位と併せて最優秀課題曲演奏賞、聴衆賞を受賞。2022年12月にVIRTUS CLASSICSよりデビューアルバム「SONATE MIRAGE」をリリース。レコード芸術特選盤、朝日新聞for your collection推薦盤、ONTOMOMOOKレコードアカデミー賞選出。これまでに荘村清志、江間常夫、松尾俊介、上谷直子、オリヴィエ・シャッサン、ジアニ・カセロット各氏に師事。



Che Guitarra

チェ・ギターラ / Che Guitarra

藤元高輝、井本響太、齋藤優貴の3名を中心に活動している団体。「やりたいことは、まずやってみる」を信条に、2024年より活動を開始。これまでに、邦人作曲家による新作委嘱や、オンラインギターコンクール「ギター番付」の企画・運営など、その活動は多岐にわたる。クラシックギター業界の未来を牽引する存在として、注目を集めている。

吉野杉ギターのこと / 河野ギター・君島聡氏インタビューから

—いま、挑戦してみたいことはありますか？

奈良県吉野町を訪れて手に入れた、吉野杉を使ったギターをつくることです。クラシックギターの素材としては新しい材料ではありませんが、それを覆すポテンシャルを感じるんですよ。奈良県の森林技術センターの調べで、木材の特性がクラシックギターで主に使われているスプルースとレッド杉の間くらいに位置している事が分かりました。それで奈良県の吉野に住むギター製作家の丸山利仁さんが最初の吉野杉ギターを作り、それを見せてもらう機会があったのですが、音色が素晴らしく、僕もこの材を使ってみたくて丸山さんに申し出た所、素晴らしい吉野杉材を紹介して頂きました。

この吉野杉はクラシックギターに限らず、アコースティックギター製作家などいろいろなギター製作家と共有したいと考えています。なぜかという、「日本のギター」として世界に発信していきたいから。クラシックギターの発祥地はスペインで、アコースティックギターの発祥地はアメリカです。元来、他国の楽器ですが、日本人ははじめで器用なので、実はクオリティの高い楽器を作れます。ですが他国の文化の借り物であるがゆえに、本場と比べると格下扱いされがちです。狭い島国ですので、材や技術などはある部分で共有し合い、ある部分では切磋琢磨し合い、お互いに良いものを生み出し、気付いたら日本らしいギターが誕生していたらいいなと思っています。それらが海外で認められ、本場の価値を上回るものを生み出せたらこんなに嬉しいことはありません。

僕は桜井から「河野賢の孫という立場のお前は、クラシックギターという狭い市場でギター製作家の需要を奪う可能性がある。敵も増えるだろうから、覚悟をしとけ」とよく言われていたんですね。でもいざギターをつくり始めると、たくさんの製作家から様々なアドバイスを頂きましたし、とても優しく接してくれました。僕はそれに心から感謝しています。恩を仇で返すことはしたくありません。自分の存在が日本のギター界のためになるなら、少しでも貢献したい。吉野杉のギター製作は、そのひとつのきっかけになれたらと考えています。

現代の生き方のヒント「PLOTTER MAGAZINE」[Interview No.020]から引用